

平成28年度 授業改善推進プラン

教育目標

○よく考える子 ○思いやりのある子 ○体をきたえる子

日本国憲法  
教育基本法  
学校教育法  
学習指導要領 等

児童・学校・地域の実態  
保護者や地域の願い  
教師の願い  
学校評議員からの意見 等

学校経営方針（学力向上にかかわる要点）

人間力

- 学力の向上
- 社会性の育成
- 健康な心や体

自立  
協働  
創造

いつでもどこでも  
国際人青南の子  
開校110周年を  
常に意識した教育活動

各教科の指導の重点を確実に児童に身に付けさせるため次の取組を行います

道徳教育指導の重点	教科	取組内容	生活指導の重点
<p>○一人ひとりの考え方や行動、人とのかかわりを大切に、自他の生命・人権を尊重し、思いやりのある豊かな人間性を養う。</p> <p>○全体計画に基づき、道徳の時間の充実を図るとともに、全教育活動を通して道徳的判断力を高め、各学年の発達段階に応じた道徳的実践力の育成に努める。</p> <p>○学校教育において豊かな体験の場を取り入れることを重視し、家庭・地域社会との連携を深め、子供の内面に根ざした道徳的実践を促す。</p> <p><b>総合的な学習の時間の重点</b></p> <p>○自己の生き方につながる学びを経験できるようにするために、地域の「ひと・もの・こと」とのかかわりを基本にすえ、それらを対象にした課題を児童自らが設定し、意欲的に探究し、学んだことを伝え、自分の生活に生かしていく場とする。</p> <p>○子供に身に付けさせたい資質・能力・態度を明確にし、それを育むための学習活動を実態に即して設定するとともに、各教科等との関連を積極的に図りながら、横断的・総合的な学習、探究的な学習を進める。</p>	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと・聞くこと」については、低学年においては場に応じたスピーチの機会を設け、相手の思いを受け止めるとともに的確な質問ができるようにし、高学年においては話し合いの方法を指導し、自分の立場を明確にして意見を述べることを学習の中で取り入れ、計画的に話し合うことができるようにしていく。</li> <li>・「書くこと」については、文章の書き方を授業の中できちんと教え、定期的に日記やテーマに沿った作文を書く機会を設けて、自分の考えを明確にして具体的に書く力をつけさせる</li> <li>・「読むこと」については、文章をじっくり丁寧に読むことを大切に、登場人物の心情、会話や行動、情景描写に気を付けながら文章を読むことを指導し、意見交流を通して様々な考えに気付いたり深めたりできるようにする。</li> <li>・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、筆順に気を付けた練習に取り組みせたり定期的な漢字の小テストを実施したりすることで定着をはかり、語彙を増やすために辞書をすすんで活用させていく。</li> </ul>	<p>○基本的生活習慣及び規範意識を身に付けた児童の育成と、健康教育の推進に努める。PTA活動と連携した食育の充実を一層図る。</p> <p>○安全教育の充実を図り、問題の早期発見、解決に向けて報告・連絡・相談を密にし、事故防止を徹底するとともに、危機対応体制の確立を図る。</p> <p>○教育相談活動を充実し一人一人の児童の理解に努めるとともに、温かい人間関係の中で自己実現を図る。</p> <p>○学校と家庭・地域社会との連携を密にし、全教育活動を通じて心の通った健全育成に努める。</p> <p>○児童会活動による挨拶運動を中心とした児童による生活習慣改善の推進。</p> <p><b>進路指導の重点</b></p> <p>○自分のよさや可能性に気付き自分らしい生き方を実現する態度を育てる</p> <p>○進路指導の全体計画に基づき、学年発達に応じたキャリア教育を行う。</p> <p>○教育活動全体において「生きる力」を育成する場面を設定し、困難や課題を乗り越えようとする態度を身に付けさせる。</p> <p>○地域の様々な職業の方の話を聞くなど、児童が生き方を具体的に学べる機会を設定し、将来の夢をもつことをうながす。</p>
	社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図や年表などの基礎的資料を効果的に用いる指導をし、社会的事象を正確に読み取る力を育てる指導をする。</li> <li>・資料を活用する学習では、話し合い活動などを取り入れ、よく吟味し、資料を読み取り活用する力を育てる。</li> <li>・考えたことや読み取ったことを、根拠を挙げて文章にまとめる力を育てるために、学習の中で、考えを文章にまとめる時間をとる。</li> </ul>	
	算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「数と計算」「数量関係」領域の基礎力を定着させるために習熟度別に指導を行う。また、東京ベーシック・ドリルはじめ多様な問題を繰り返し解く時間を確保したり、宿題に出したりする。</li> <li>・「量と測定」の領域では、長さ、重さ、面積、体積を測定してから測定したり、時間を用いたり求めたりするなど、量感をつかみ、日常生活に当てはめ活用する算数的活動を取り入れる。</li> <li>・児童一人一人が課題を把握し、自分で問題解決する場面を設ける。その際発達段階に応じて具体物からブロックなど操作、線分図など抽象概念への転換を意識して指導する。</li> <li>・考えを論理的に表す場面を多く取り入れ、思考力を高めるようにする。</li> </ul>	
	理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決学習を継続し、ノート指導により考えを言葉で記述することで思考表現力を伸ばす。</li> <li>・既習から問題を見出したり、考えたりすることにより用語も含めた知識理解の定着につなげる。</li> <li>・可能な限り一人一実験を実施し、同じ実験を繰り返し行い結果の普遍性を確かめる。</li> <li>・虫眼鏡、方位磁針などの器具は、教室に常備し、安全に留意した上で日常的に活用できるようにする。さらにその正しい使い方の習熟を図り長期休業等においては家庭に持ち帰り活用を促す。</li> <li>・生活科及び学年間、中学校との内容の系統性を及び日常生活での活用や科学技術との関連に広げる指導を実施するとともに「持ち帰り実験」を取り入れ、理科学習をくらしに広げる。</li> <li>・自然事象の言語化を繰り返し、言葉による表現になれるようにする。</li> </ul>	
	生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験的な学習・幼稚園や保育園、異学年との交流学習などを通して、人と関わる場を設け、他者との関わりから自分の考えを深めたり、自分との違いに気付いたりできるようにする。</li> <li>・体験活動やものづくりなどから自分が気付いたことを次につなげていけるように活動の連続を考えていく。</li> </ul>	
	音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供の思いを引き出せるような教材を工夫する。また、曲想に合った声や音色を出すことができるように情景を思い浮かべせたり、異なる曲想の曲を比較し表現方法を話し合ったりする活動を取り入れる。</li> <li>・個人指導やペア学習、グループ活動を取り入れ、音楽表現の基礎・基本を身に付けさせる。</li> <li>・児童が演奏の良さや楽器の音色の違いなどに気づきやすい楽曲を選曲し、鑑賞活動を充実させる。</li> </ul>	
	図画工作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いを表現でき、作ることの楽しさや充実感を味わえるような題材を工夫する。</li> <li>・発達段階を考慮して系統立てて題材を設定し、イメージに合わせて適切な材料や用具を選べるよう、多様な造形活動を体験させる。</li> <li>・各自の目標を設定させ、見通しを持って活動することで、よりよい作品を作ろうという姿勢を育てる。</li> </ul>	
	家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理や布を使つての製作活動など、実際に作業体験をする時間を十分にとり、できた喜びや、実際に自分で行うことの楽しさを感じさせるようにする。</li> <li>・家庭科室を整備し、児童への学習環境を整える。</li> <li>・家庭との連携を図り、学習したことを実際の生活の中で活用する機会を多くとれるようにする。</li> </ul>	
	体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童一人一人に自分の力に合ったためあてをもたせて、個に応じた指導（言葉かけ、場の工夫、掲示物・ICT機器の活用）の一層の充実を図る。学習カードなどを活用し、評価と指導を繰り返す。</li> <li>・多くの運動経験をさせ、運動することの楽しさを味わわせるために、体育学習だけでなく、日常的にも自ら進んで体を動かす態度を養う。（運動感覚、筋力等の体力向上を図る）</li> </ul>	

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導方法・指導体制の工夫	評価活動の工夫	校内における研究や研修の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> <li>○思考・判断・表現力を育成するために言語活動をすべての教育活動において重視し、授業改善に努める。</li> <li>○全校体制による読書指導を充実させる。</li> <li>○体験的・問題解決的な学習を重視する。</li> <li>○第2校庭・あおの森を活用した教育活動を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個に応じた指導方法を充実させる。</li> <li>○時程の工夫及び土曜日授業実施による時数確保を行う。</li> <li>○異学年交流を重視した特別活動を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○指導と評価の一体化を進める。</li> <li>○学校評価の充実…自己評価・学校関係者評価・第三者評価を「改訂イクル」に沿って実施</li> <li>○中間学校評価の授業改善への反映</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ブレインストーミング、KJ法的手法、ワールドカフェ等を活用し、校内研究に対する教員の学びをアクティブ・ラーニングにする。</li> <li>○研究の視点を広く設定し、算数科の授業研究を通して、他教科、他領域にも通じる教員の学びを得られるようにする。</li> <li>○次の日の自分の実践、次回の校内研究授業に対し、伝えたい内容を「バトン」として表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校公開、保護者会での説明会、毎月の土曜授業日。</li> <li>○学校評議員会・学校保健委員会の効率的運営及び積極的活用。</li> <li>○「文化芸術サロン構想」に基づく地域人材（含む卒業生）の活用。</li> <li>○家庭との連携による体力づくり、児童に地域の諸行事への積極的参加を奨励。</li> <li>○学校ホームページ及び学校だよりによる情報公開の充実。</li> <li>○青山アカデミーにおける幼小中の連携の一層の推進。</li> </ul>